Masuko Memorial Hospital Masuko Clinic Subaru



まずこ新聞





令和4年11月発刊

With Corona(ウィズコロナ)の後はどうなるのか? 不安なく暮らすためのアドバイス

> 衆済会 增子記念病院 理事長・院長 両角國男

残念なことですが、新型コロナウイルス感染が終息しません。愛知県では11月初旬から第8波に入りました。専門家の意見を受け行政は、コロナウイルスとの共存社会が続くことを認めたうえで、コロナ以前の社会に戻っていく移行期と考えています。そう言われても感染したらどうなるのかとの不安が当然ですがあると思います。2年半前の新型コロナウイルス感染当初、感染後死亡リスクは高く、死後も家族は顔を見ることができなかったことなどコロナ感染はまさに疫病でした。メディア情報に翻弄され不安に陥っても当然だったと思います。

しかし、最近の新型コロナウイルス感染の実態は以前とは異なる状況です。日本の新型コロナウイルス感染最重症例での治療成績は欧米を凌駕し良好で大半は救命され社会復帰しています。これまで増子記念病院は透析患者さんのコロナ感染治療に積極的に取り組み責任をもって入院加療する役割を果たしてきました。これからも感染対策を徹底しながら皆さんの医療環境を守っていきます。

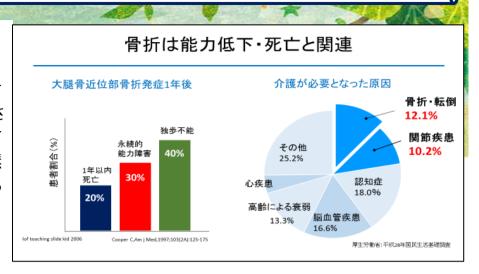
いまこそ、新型コロナウイルス感染を冷静に見直すべき時期です。全世界的にコロナウイル スはオミクロン株に移行し重症例は激減しました。感染初期の発熱などありますが数日で改善 し、感染症専門医の大半がインフルエンザに近い状態と考えています。新型コロナウイルスは 今後も変異しますが基本はオミクロン株の亜型で推移し、重症化はしないと予測されています。 過度の不安は持たないでください。しかし、感染予防対策はまだ必要です。2価ワクチンは感 染拡大や重症化予防効果に加え安全性も信頼できるレベルですから接種を推奨します。日常生 活で普通の景色となった近距離会話時のマスク着用、手洗い励行、食事は黙食とし、多人数で の羽目の外れた行動などはもう少し辛抱してください。家庭内での生活や深まる秋を楽しむ散 歩にマスクは不要です。家族との団欒や友人との親交などを大切にして暮らしてください。イ ギリスでは発熱してもコロナウイルス感染検査を行っていません。欧米諸国の大半では以前の 日常生活を取り返し、社会生活が再開しています。日本でも明るい家族環境を起点として元気 な社会を取り戻し、優れた日本の衛生教育と環境保持で感染拡大のない社会を実現したいと思 いますし、きっとできると思います。もう少しの我慢です。来春には2類相当感染症からコロ ナ感染は外れると予測されています。パンデミックになった感染症は3-4年で終息することは 歴史が教えてくれています。幾多の苦難を乗り越えてきた歴史と人類の英知、幸せに貢献する 科学進歩を信じてください。

増子記念病院は皆さんと手を携え、信頼される優れた医療レベルと全職員の誠意ある診療で皆さんとともに歩んでいきます。

1.骨粗鬆症と骨折予防のお話

(林 史人 理学療法士・骨粗鬆症リエゾンマネージャー)

骨粗鬆症は、日本人口の1割である 1300万人が罹患していると言われ ています。しかし実際に治療を受け ているのは200万人程度であり、さ らにそのうちの半数は自己中断して いるという報告があります。骨粗鬆 症は自覚症状などなく軽視されがち ですが、介護が必要になる原因の 20%以上は、骨折や関節疾患によ るものと言われています。

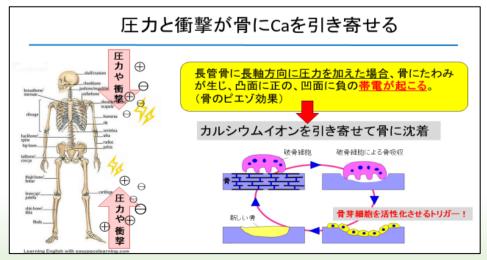


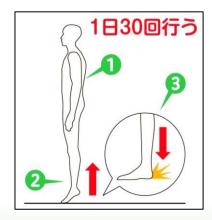
■ 転倒予防のススメ

- ●左の①~③を含む複合的な運動 を個々の能力に合わせて行いま しょう。
- ●重要なのは楽しみや達成感です。これがないと長続きしません。
- ●ポイントは回数より日課にする ことです。



■ 骨トレのススメ





かかと落とし運動

- ●骨に圧力や衝撃が加わることで骨にマイナスの帯電が起こり、プラスの電荷をもつカルシウムを骨に沈着させます。
- ●かかと落としやウォーキングはこのような効果が期待されます。関節疾患等のある方は主治医 に相談してから行ってください。

2.腎臓病についてお気軽にご相談ください

「腎臓病って何に気をつければいいんだう?」 「透析したくないから、どうにか進行を遅らせ たい」「もうすぐ透析と言われた…どうしよ う」など、腎不全保存期の患者さんのあらゆる お悩みに専門スタッフが対応いたします。



(写真右) 近藤 弥生 透析看護認定看護師

昨今は、インターネットが普及してあらゆる情報が簡単に手に入ります。しかし、中には間違った情報や、全ての人には当てはまらない情報もあります。当院では腎臓病領域の専門資格を持ったスタッフが15名在籍しています。まずは患者さんからお話しを伺い、それに合わせて必要な情報提供や支援を行います。

腎臓病は長く付き合っていかなければならない病気です。患者さんのライフスタイルに合わせ た療法を選択できるように、お手伝いさせていただきたいと思います。

窓口は外来となりますので、受診の際に、主治医または外来スタッフへ声を掛けてください。

3.オーバーナイト透析 紹介動画を掲載しました



当院の公式ホームページに「オーバーナイト透析」の紹介動画を掲載しました。

オーバーナイト透析とは、腎疾患への血液透析療法を、一般的な昼間の時間ではなく、夜間の睡眠時間を活用する特徴的な診療方法です。

現在、名古屋市内の医療機関では、当院のみが実施しています。

ホームページでは、オーバーナイト透析の概要や流れについて動画で紹介していますので、 ご関心をお持ちの方はぜひ当院ホームページより動画をご視聴ください。





オーバーナイト透析 紹介ページ O R コード

「ますこ・すばる新聞 令和4年秋号」 発行:増子記念病院 広報委員会 (令和4年11月) ● 医療法人 衆済会 増子記念病院 〒453-8566 名古屋市中村区竹橋町35番28号 TEL: (052)451-1307 / FAX: (052)451-1324 ● 増子クリニック昴

〒453-0856 名古屋市中村区並木1丁目322番地 TEL: (052) 412-8211 / FAX: (052) 414-2962